

広島市の感染症発生状況(平成 13 年度)

生 物 科 学 部

は じ め に

広島市内で発生した感染症のうち、2 類および 3 類感染症は、保健所、各区の保健センター、医療機関などとの連携の基に患者接触者や菌株等の検査を実施している。

平成 13 年度の広島市内における 2 類および 3 類感染症の発生状況を報告する。

方 法

1 感染症発生状況

市内の医療機関から保健センターへ届出された患者の情報および当所で分離した菌株の情報をもとに集計した。

2 血清型および毒素型

医療機関などから提供を受けた菌株について、常法により血清型、毒素型を決定した。

結 果

1 2 類および 3 類感染症の発生状況

過去 5 年間の広島市内における 2 類および 3 類感染症(急性灰白髄炎を除く)の発生状況を表 1 に示した。

細菌性赤痢は海外旅行者の輸入例が減少していたため発生数は減少したが、国内発生例はほぼ同じであった。腸管出血性大腸菌は平成 12 年度から増加した。平成 13 年度はコレラ、腸チフス、パラチフス、ジフテリアの届出はなかった。

2 平成 13 年度の発生状況

(1) 細菌性赤痢

平成 13 年度の細菌性赤痢の発生状況を表 2 に示す。8 名の届出があったが、いずれも散發事例であった。内訳は *S. sonnei* が 6 名、*S. flexneri* が 2 名で、国内発生例はいずれも *S. sonnei* であった。

(2) 腸管出血性大腸菌

腸管出血性大腸菌の発生状況を表 3 に示す。33 名の届出があり、内訳は 0157 が 22 名、026 が 11 名であった。

このうち、施設における集団発生事例は 2 件 10 名で、0157 が 1 件、026 が 1 件であった。5 月に東区の保育園において、園児とその家族計 4 名が 0157 に感染した。また、8 月には西区の託児所において、園児と家族計 6 名が 026 に感染した。

散發事例は 23 名で、このうち同一家族内発生が 3 件 7 名であった。

表 1 広島市内で発生した 2 類、3 類感染症発生状況(平成 9~13 年度)

年度	コレラ	細菌性赤痢	腸チフス	パラチフス	腸管出血性大腸菌	ジフテリア
9	-	21 (16)	-	-	7	-
10	-	13 (13)	3 (1)	-	19	-
11	-	14 (7)	1	-	18	-
12	-	10 (5)	-	-	48	-
13	-	8 (3)	-	-	33	-

(): 海外旅行者分再掲

表 2 細菌性赤痢

No.	届出日	性別	年齢	住所(区)	渡航歴	血清型	備考
1	13. 4. 3	女	23	西		<i>S. sonnei</i>	
2	13. 6. 14	男	22	安佐南	カンボジア	<i>S. flexneri</i> 1b	同行者 26 名健康
3	13. 8. 24	女	43	西	中国	<i>S. sonnei</i>	単独旅行
4	13. 10. 4	女	60	安佐北	ペルー	<i>S. flexneri</i> 1b	入院
5	13. 12. 5	女	45	東		<i>S. sonnei</i>	
6	13. 12. 17	女	28	中		<i>S. sonnei</i>	
7	13. 12. 17	女	62	南		<i>S. sonnei</i>	入院
8	13. 12. 23	女	48	安芸		<i>S. sonnei</i>	

表3 腸管出血性大腸菌

No.	届出日	性別	年齢	住所(区)	血清型	毒素型	区分	備考
1	13. 4.16	女	23	西	0157 : H7	VT1 , VT2	散発	
2	13. 5. 8	男	4	東	0157 : H7	VT1 , VT2	集団(a)*	
3	13. 5.11	男	32	東	0157 : H7	VT1 , VT2	集団(a)	2の父
4	13. 5.11	女	1	東	0157 : H7	VT1 , VT2	集団(a)	2の妹
5	13. 5.17	女	1	東	0157 : H7	VT1 , VT2	集団(a)	4と同クラス
6	13. 6. 2	男	6	西	026 : H11	VT1 , VT2	散発	
7	13. 6.12	女	33	中	0157 : H7	VT2	散発	
8	13. 6.18	女	53	中	0157 : H7	VT2	散発	保菌者
9	13. 8. 2	女	7	南	0157 : H7	VT1 , VT2	散発(b)	
10	13. 8. 4	男	12	佐伯	0157 : H7	VT1 , VT2	散発	
11	13. 8. 6	女	35	南	0157 : H7	VT1 , VT2	散発(b)	9の母
12	13. 8. 7	女	12	佐伯	0157 : H7	VT1 , VT2	散発(b)	10と同クラス
13	13. 8. 8	女	16	安芸	0157 : H7	VT1 , VT2	散発	
14	13. 8.10	女	53	佐伯	0157 : H7	VT1 , VT2	散発	
15	13. 8.11	女	53	安佐北	0157 : H7	VT1 , VT2	散発	
16	13. 8.11	女	22	西	0157 : H7	VT1 , VT2	散発	
17	13. 8.13	男	10	南	0157 : H7	VT1 , VT2	散発	
18	13. 8.20	女	3	西	026 : H11	VT1	集団(c)	
19	13. 8.22	男	3	西	026 : H11	VT1	集団(c)	
20	13. 8.27	女	3	西	026 : H11	VT1	集団(c)	
21	13. 8.27	男	3	佐伯	026 : H11	VT1	集団(c)	
22	13. 8.29	男	4	西	026 : HUT	VT1	集団(c)	
23	13. 8.31	女	2	佐伯	0157 : H7	VT2	散発	
24	13. 9. 2	女	41	西	026 : HUT	VT1	集団(c)	22の母
25	13. 9. 5	女	10	東	0157 : HUT	未検査	散発	抗体検査のみ HUS
26	13.10. 9	女	2	安佐南	026 : HUT	VT1	散発(d)	
27	13.10. 9	男	5	西	0157 : H7	VT2	散発	
28	13.10.12	男	35	安佐南	026 : HUT	VT1	散発(d)	26の父
29	13.10.15	女	61	安佐北	026 : HUT	VT1	散発(d)	26の祖母
30	13.10.25	男	2	安佐南	026 : H-	VT1	散発	
31	13.12.24	女	2	中	0157 : H7	VT1 , VT2	散発(e)	HUS
32	13.12.28	女	27	中	0157 : H7	VT1 , VT2	散発(e)	31の叔母
33	14. 2.13	女	2	東	0157 : H7	VT1 , VT2	散発	HUS

*:アルファベットの同一の集団, 散発事例を表す。

年齢別患者数では0~9歳が16名(48.5%)で最も多く、次いで10~19歳が5名(15.1%)で低年齢層が目立った。特に5歳未満の乳幼児は13名で集団発生事例もあり約4割(39.3%)を占めた。

腸管出血性大腸菌の血清型と毒素型を表4にまとめた。0157は菌株が提供されなかった1名を除き21名中17名がVT1+VT2、4名がVT2であった。026は11名中10名がVT1であった。

表4 腸管出血性大腸菌の血清型と毒素型

	VT1	VT2	VT1+VT2	計
0157 : H7	-	4	17	21
026 : H11	4	-	1	5
026 : H-	1	-	-	1
026 : HUT	5	-	-	5
計	10	4	18	32